

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年11月27日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2774501155
法人名	もみの木有限会社
事業所名	もみの木のいえ
所在地	泉佐野市羽倉崎3丁目8番5号 (電話) 072-466-3358

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成21年11月13日

【情報提供票より】(平成21年10月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤	8人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨一部木造 造り		
	3階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~32,000円	その他の経費(月額)	35,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ (昼食代に含む)
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年10月21日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.1歳	最低	58歳	最高	86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人康生会泉佐野優人会病院、ふじや歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地元の人が営利法人を設立し、自宅を提供・改造して運営するグループホームで、訪問介護・居宅介護支援の介護保険事業もスタートさせています。「明るく、楽しく、元気よく」の運営理念のもと、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、職員、地域の人達と共に支えています。家庭的な落ち着いた雰囲気です。利用者は元気よく生活しています。コミュニケーションを大切に、退院後ホームで生活リハビリを行うことにより、劇的な回復へとつながった例がある等、自立支援にも力を入れています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価受審で示された事項について、モニタリングとケア会議を実施して介護計画の見直しを実施するようになり、介護計画に家族の同意も得るようになりました。またケアチェック表を使って利用者の思いや意向を把握するようになり、非常災害時の避難訓練を実施しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は施設長が作成し、管理者や職員は自己評価に参加できていない状況です。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は市職員や民生委員、町内会役員の参加のもとで2ヶ月毎に実施しています。会議ではホームの運営状況や行事、避難訓練、社員研修の仕組み、認知症や介護技術等について説明しています。今後、地域のイベントに参加して地域との交流を深めていくことについても話し合っています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項についてはその都度家族へ電話で報告しています。家族には毎月利用者の近況を知らせる職員手書きの手紙を送付し、行事写真やスタッフ紹介等をのせた季刊紙「ぞ・もみの木」も送付しています。ただ金銭管理については定期的に家族の確認のサインを得ていない状況です。家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また意見箱の設置を予定しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元のふれあいの集いに参加したり、だんじり祭りの見物に出かけたり、ホームで職人を招いて行ったそば打ち会に地域の人も参加してもらって交流を深めています。地域のボランティアと一緒にお茶会やオルガン演奏、クラフトを楽しんでいます。地域の子ども会との触れ合いもあります。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、楽しく、元気よく」の運営理念のもと、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、職員、地域の人達と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。月例の業務検討会議やケア会議、毎日の業務を通じて方針を共有し、介護サービスに反映させるよう話し合っています。また、職員は利用者の日々の表情から理念が実践されているかどうか判断するために利用者との関わりを大切にしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地元のふれあいの集いに参加したり、だんじり祭の見物に出かけたり、ホームに職人を招いて行ったそば打ち会に地域の人も参加してもらって交流を深めています。地域のボランティアと一緒にお茶会やオルガン演奏、クラフトを楽しんでいます。また、地域の子どもの会の集いにも利用者が参加し、おしゃべりを楽しむこともあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価受審で示された事項について、モニタリングとケア会議を実施して介護計画の見直しを実施するようになり、介護計画に家族の同意も得るようになりました。またケアチェック表を使って利用者の思いや意向を把握するようにしています。非常災害時の避難訓練についても実施しています。今回の自己評価は施設長が作成し、管理者や職員は自己評価に参加できていません。	○	自己評価の実施にあたっては、全職員が評価の意義と狙いを理解し、具体的にサービスの改善に活用するため、管理者と職員が一体となって作成することが求められます。
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市職員や民生委員、町内会役員の参加のもとで2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況や行事、避難訓練、社員研修の仕組み、認知症や介護技術等について説明しています。今後、地域のイベントに参加して地域との交流を深めていくことについても話し合っています。	○	運営推進会議の目的や構成等を定め、規程を作成することが求められます。
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員と相談や情報交換を実施し、市主催の地域密着型介護事業者の連絡会にも出席して交流し、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項についてはその都度家族へ電話で報告しています。家族には毎月利用者の近況を知らせる職員手書きの手紙を送付し、行事写真やスタッフ紹介等をのせた季刊紙「ざ・もみの木」も送付しています。しかし、金銭管理については定期的に家族の確認のサインを得られていない状況です。	○	金銭管理を行うにあたっては、定期的にその収支と残高について家族に報告し、確認のサインを得ることが求められます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また意見箱の設置を予定しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立後4年が経過していますが、常勤職員の退職が多く、利用者には馴染みの関係が築きにくい状況です。利用者には状況を伝え、動揺や不安を鎮める努力をしています。	○	職員の退職により、家族や利用者には不安感を与えやすくなります。運営者は利用者が馴染みの職員による支援を受けられるよう、離職について再度検討し、最小限に抑えるよう検討することが求められます。また全職員がチームワークを大切にし、協力し合って利用者に接することができるよう、職場環境を整える努力をすることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年から外部研修だけでなく内部研修を実施するようになりました。「認知症」や「感染症」のテーマについては研修を実施していますが「緊急時対応」については実施されていない状況です。	○	研修の実施にあたっては「認知症」「感染症」の研修をすでに受講していますが、今後は「緊急時対応」を含めた3つのテーマについて研修に参加することが求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年からはじまった市主催の地域密着型介護事業者の連絡会に出席して交流を図っています。また、大阪認知症高齢者グループホーム協議会にも加入し、情報交換や相互交流を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の職員の家庭訪問、利用者や家族のホーム見学や体験入居等を通じて馴染みの関係を作り、家族や本人の不安を取り除き安心して入居できるように取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。色紙に一言書くのが得意な方、果物の皮むきや切り方の得意な方、農作物に詳しく栽培の得意な方等、利用者の得意な分野でその力を発揮してもらい、家事や行事の機会を通して、学び支え合う関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新たにケアチェック表を採用してアセスメントを確実に行うようになり、利用者の希望や意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや、心身の状況を把握し、医師や看護師の意見、家族や利用者の思いや要望を反映させた介護計画を作成し、家族の同意を得るようになりました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。介護計画作成担当者は毎月ケア会議を開催し、介護計画の援助項目毎にモニタリングを確実に実施し、職員と共同で介護計画の見直し案を作り、サービス担当者会議を開いて介護計画の見直しにつなげています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の依頼により通院介助を行っています。地域のボランティアによるレクリエーションの支援を受けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携クリニックの医師による往診を受けています。診療科目によっては入居以前のかかりつけの医療機関から、引き続き医療を受けている利用者がいます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、利用者と家族は入居前にホームでの看取りは実施しない方針の説明を受けています。しかし、利用者がホームでの生活をできるだけ長く続けられるよう、利用者の状況の変化とともに、利用者と家族、医師、ホームとの話し合いを行いながら対応していく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員は利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。利用者の体調やペースに合わせて、朝食の時間や入浴時間など、柔軟な対応をしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食利用者の希望も取り入れ、ホームで調理をしています。利用者は野菜の下ごしらえや食事準備、後片付けなどの得意な分野で分担しながら参加しています。利用者と一緒におやつ作りをすることがあります。また、菜園で取れた野菜が食卓に並ぶこともあります。職員は利用者と同じ物を食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しく和やかな雰囲気を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週に3回は職員と会話をしながら寛いだ入浴を楽しんでいます。季節によってゆず風呂などの行事風呂も楽しんでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。色紙に一言書くのが得意な方、農作物に詳しく栽培の得意な方、職員との会話を楽しむ方等、特技を活かした楽しみごとや気晴らしの支援を行っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には周辺の公園への散歩やスーパーへ食材の買物に出かけています。また利用者と個別に思い出の店へ買い物に出かける支援をしています。月に1回外食にも出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リビングと玄関ホールが一体化しており、玄関口への見通しが良い構造になっています。そのため、職員の見守りで対応ができ、玄関扉には施錠していません。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	5月に消防署の指導のもと災害避難訓練を実施し、年内にも再度実施する予定です。非常・災害時の食料品と水の備蓄を計画し実施する予定です。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事摂取量と水分摂取量を把握し記録しています。ただ栄養バランスについては専門家のアドバイスを受けていません。	○	提供している食事について、量や栄養バランスについて専門家のアドバイスを求めることが求められます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関付近のスペースが広く季節の花や野菜があり、また犬も飼っている等、親しみやすく訪ねやすい雰囲気になっています。リビングから玄関口までが見通せる開放的なスペースで机やソファ代替わりのたたみベッド、家具が雑然と置かれ、季節感のある花や貼り絵の作品を飾り、家庭的で落ち着つける雰囲気になっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはホームが提供しているベッド・衣装たんす以外に、利用者が持ち込んだ整理ダンス、椅子、仏壇、人形、自作の絵画、手作り作品、家族の写真、テレビ等があり、利用者が安心して過ごせる、落ち着いた個性的な部屋となっています。利用者の今までの暮らしがしのばれるような生活感がありました。</p>		